

二 三 二 一 \* 二 三 二 三 一 ○ 九 八 七 六 五 四 三 二 一 一 一 ○ 九

		〔 い ち に 一 一 〕 * 朱書
合すれば則ち一氣一物分るれば則ち二混成す。	具一體二、剖して緯を爲す。	體は一を覗く、性は一を成す、性は地を成す、性は天を成す、
日本	鎮西	會易
三浦晉	本宗	性は性を有し、性は體に偶し、性は物に性す、性は物に性す、
安貞	著	故に物は性と具す、物は氣に偶す、性は物と混成して、物は性と粲立てて、
		而して鱗縫無し、故に其の一や全なり、

二九一三〇 二八  
四七 四六 四五 四四 四三 四二 四一 四〇 三九 三八 三七 三六 三五 三四 三三 三二 三一

一は徒らに一なれば則ち分合せず、  
二は徒らに二なれば則ち剖對せず、  
三は徒らに三なれば則ち剖對せず、  
四は徒らに四なれば則ち剖對せず、  
五は徒らに五なれば則ち剖對せず、  
六は徒らに六なれば則ち剖對せず、  
七は徒らに七なれば則ち剖對せず、  
八は徒らに八なれば則ち剖對せず、  
九は徒らに九なれば則ち剖對せず、  
十は徒らに十なれば則ち剖對せず、  
十一は徒らならず。

一は徒らに一なれば則ち各なり、  
二は徒らに二なれば則ち全なり、  
三は徒らに三なれば則ち全なり、  
四は徒らに四なれば則ち全なり、  
五は徒らに五なれば則ち全なり、  
六は徒らに六なれば則ち全なり、  
七は徒らに七なれば則ち全なり、  
八は徒らに八なれば則ち全なり、  
九は徒らに九なれば則ち全なり、  
十は徒らに十なれば則ち全なり、  
十一は徒らならず。

立てば則ち各なり、  
成れば則ち全なり、  
剖を以て一を分つ、  
剖を以て二を合す、  
剖けば則ち經なり、  
對すれば則ち緯なり、  
之を經し之を緯す。條理は自から分かる。  
爲物は經緯朱緑なり、  
成物は鸞鳳華卉なり、  
其の神は則ち巧婦の意匠なり。是を以て錦は必ず一經一緯なり。  
神は用し物は成る。是に於て  
一緯の經と分れざる無し、  
一經の緯と合せざる無し、  
合すれば則ち龍起鸞舞す。  
龍起鸞舞すと雖も。而も  
分るれば則ち經は自から經と比す、  
緯は自から緯と比す、

(Iwa 389a)

四八一四九	是を以て一匹の錦、性は表裏の二體を具す。
五〇一五一	巧婦は神を運す。蠶絲は物を立す。
五一五三	人巧知らず。天造の蘊に至る。
五四一五五	蓋し大物の氣物爲るや。經緯は以て通塞す、精龜は以て没露す。
五六	經通は時を爲し、而して神は事を此に用す、
五七	緯塞は處を成し、而して物は物を此に體す、
五八	是を以て一匹の錦、
五九一六〇	龍をして斯に起たしめ鸞をして斯に舞わしむ、
六一	表の燦爛を弄して、而して
六二	裏の隱幽を窺う、
六三	經緯は相い反す。
六四	類類は相い比す。
六五	以て對待の道を察す。
六六	以て剖析の所を察す。是を以て
六七	錦は則ち本一、故に全なり、
六八	表裏兩面。
六九	全錦一匹。
七〇	以て剖析の所を察す。是を以て

是を以て一匹の錦、性は表裏の二體を具す。  
 巧婦は神を運す。蠶絲は物を立す。  
 人巧知らず。天造の蘊に至る。  
 蓋し大物の氣物爲るや。經緯は以て通塞す、精龜は以て没露す。  
 精龜は以て没露す。  
 經通は時を爲し、而して神は事を此に用す、  
 緯塞は處を成し、而して物は物を此に體す、  
 是を以て一匹の錦、  
 龍をして斯に起たしめ鸞をして斯に舞わしむ、  
 表の燦爛を弄して、而して  
 裏の隱幽を窺う、  
 經緯は相い反す。  
 類類は相い比す。  
 以て對待の道を察す。  
 以て剖析の所を察す。是を以て  
 錦は則ち本一、故に全なり、

七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八一八九 九〇 九一

表裏は則ち一、故に偏なり。  
 全なれば則ち表裏混成し、罅縫を没す、  
 偏なれば則ち表裏粲立し、條理を見す、  
 一匹の錦は、條理整然たり。

是に於て  
 表裏は則ち一、故に偏なり。  
 全なれば則ち表裏混成し、罅縫を没す、  
 偏なれば則ち表裏粲立し、條理を見す、  
 一匹の錦は、條理整然たり。

是か非か。元氣の玄。明を開き幽を閉ず。  
 混は則ち一にして而して粲は則ち二か。  
 粔は對すれば則ち混も亦た粲と竝立す、  
 混は有すれば則ち粲も亦た混成を爲す、  
 粔は則ち混中に露して能く一を偏にす、  
 全は亦た偏と對して、而して一は能く一に合す、  
 一の一に於るは。亦たの一に於るなり。故に  
 一にして一に伍する。勢は一一を成す。  
 痕を著くれば則ち隻を見すなり。故に

是に於て  
 表裏は則ち一、故に偏なり。  
 全なれば則ち表裏混成し、罅縫を没す、  
 偏なれば則ち表裏粲立し、條理を見す、  
 一匹の錦は、條理整然たり。

是か非か。元氣の玄。明を開き幽を閉ず。  
 混は則ち一にして而して粲は則ち二か。  
 粔は對すれば則ち混も亦た粲と竝立す、  
 混は有すれば則ち粲も亦た混成を爲す、  
 粔は則ち混中に露して能く一を偏にす、  
 全は亦た偏と對して、而して一は能く一に合す、  
 一の一に於るは。亦たの一に於るなり。故に  
 一にして一に伍する。勢は一一を成す。  
 痕を著くれば則ち隻を見すなり。故に

性は一を具すと雖も。體の一を覗くと竝立す。  
竝立は則ち痕を著す。一と自から間有り。間有りと雖も。  
體は能く一を具す、故に其の才は能く能く融し能く通ず。  
性は已に物に性す、何ぞ亦た體有る、具覗にして後、剖析盡きず、  
物は已に性に物す、何ぞ亦た氣有る、精麿にして後、剖析盡きず、  
配すれば則ち性體の氣物に竝ぶを觀る、是に於て、對待變を盡くす。  
合すれば則ち性體の氣物に入るを觀る、是に於て、對待變を盡くす。  
一具に合す、分合共に一にして。而して  
一具は能く物に體す、而して其の一を立す、  
具は能く物に性す、而して其の一を露す、  
割して散す、是に於て  
對して合す、是に於て  
眞體は天地を立す、是に於て  
眞性は眞易に走る、是に於て  
眞易は眞縊し、是に於て  
神は其の天を活す、是に於て

(I 389b)

一 三 一 三 二 九 ○ 三 八 七 六 五 四 三 三 二 ○ 九 八 七 六 五 四 一 三

(而を欠くか。)

是れ居は同じく道は異にして。氣は均しく物は反する所以なり。  
物の反するを以て、而して露没自から異なるなり、  
氣の均しきを以て、而して對に軒輊無し、  
且つ小を以て之を言うに。人兩岸に立ちて各おの相い望めば。  
其の近遠隱見を爲すは、則ち各おの相い同じきなり、  
其の近遠隱見する所は、則ち互いに相い異なるなり、  
物の没露と、是を以て  
氣の隱見と、是を以て  
其の道を異にすと雖も、是を以て  
其の居を同くす、故に、是を以て  
物の没する所は、乃ち氣の見る所なり、是を以て  
氣の隠るる所は、乃ち物の露する所なり、是を以て  
會易は物に非ず。而して能く物に體す。故に、是を以て  
物は没露すれば、二の態なり。故に、是を以て  
氣物は物を爲せば則ち没露す、是を以て  
會易は物を爲せば則ち隱見す、是を以て  
氣は精にして没す、是を以て

一\* 一七〇 一\* 六九 一\* 六八 一\* 六七 一六六 一六五 一六六 一六四 一六三 一六二 一六一 一六〇 一五九 一五八 一五七 一五六 一五五 一五四 一五三

物は龜にして露す  
そ 龜なれば則ち氣も亦た見る、  
精なれば則ち物も亦た没す 故に  
精なれば則ち天地を没して天神を爲す、  
龜なれば則ち性物を見して華液を爲す、  
氣は物を得て而して會易は粲立す  
物は氣を以て而して天地は混成す  
天地の混成するを以て、而して會に具する者は、  
會易の粲立するを以て、而して會に具する者は、  
會易は具を同するを以て、其の居を異にすること能わず、  
會易は具を反するを以て、其の道を同くすること能わず、  
粲立すれば則ち一一平分す、  
混成すれば則ち一一相融す、  
平分すれば則ち彼此の發は同からず、  
相融すれば則ち彼此の有は異ならず、是を以て  
地は結に成り、然れども  
天は散に成ると雖も  
地は結に専らならば、則ち長じて天を盡さん、  
天は散に専らならば、則ち消して地を盡さん、是を以て

(I 390a)

一七二一七三  
 一七四  
 一七五—七六  
 一七七  
 一七八—七九  
 一八〇  
 一八一  
 一八二  
 一八三  
 一八四  
 一八五  
 一八六  
 一八七  
 一八八  
 一八九  
 一九〇  
 一九一  
 一九二  
 一九三

散結は苟くも徒らなれば。則ち上は散を繼ぐ者無し。  
 下は結を置く地無し。  
 之を桔槔に移すに。止れば則ち持にして直なり、無意以て動の用を具す、  
 動けば則ち轉にして圓なり。自ら靜の復するを俟つ。  
 前を揚ぐれば則ち後ろ低がる。天昂は人の抑うるに従う。  
 人揚は天の低ぐるに期す。  
 これ之を碓に移すに。前を抑うれば則ち後ろ昂がる、天昂はひとの抑うるに従う。  
 進むを貪れば則ち忽ち退く。  
 退くを欲せば則ち冥に進む。  
 此に長ずれば則ち彼に消す、  
 東を傾くれば則ち西が欹つ。  
 混成すれば則ち一の有に非ざる無し。  
 築立すれば則ち一の開に非ざる無し。  
 一は有し一は隠る。  
 一は開き一は移る。  
 剥くるや分れて一に之く、  
 對するや合して一に歸す。  
 剥すれば則ち會易は以て綱縊す、  
 剥すれば則ち天地は以て給資す。  
 綱縊に非ざれば、則ち會易を爲ること能わず、

二 二 二 二 二〇 二〇 二〇 二〇 二〇 二〇 二〇 二〇 一 一 一 一 一 一  
一 三 二 一 〇 九 八 七 六 五 三 二 一 〇 〇 九 九 八 七 六 五 四

剖析は盡きず、成する者も亦た爲す。  
對待相い合す、爲する者も亦た成す。  
一の立する所、其の物を幹立し、其の神を活運す、蓋し。  
二の活する所、一以て之を爲し、一以て成すなり。  
一は有し二は居す、一は活し一は立す。  
性體は氣物を貫す、氣物は性體を割す。  
一はせずんば爭でか居らん、活せずんば孰れか立たん。  
一を有すを以て、而して一移り一に居る、  
一の移るを以て、而して一は各一を全す。  
會は猶お易の如し、小は猶お大の如し。  
猶如は遡いに反す。其の變は無窮なり。  
氣を本と爲す。物を根と爲す。  
體を精と爲す。性を英と爲す。

一三三  
一三四  
一三五  
一三六  
一三七  
一三八  
一三九  
一四〇  
一四一  
一四二  
二四三—四四  
二四五—四六  
二四七—四八  
二四九—五〇  
二五一  
二五二  
二五三—五四  
二五五  
二五六

もし氣物體性の本根精英を爲すに非ずんば。  
則ち豈に相い依りて一を成せんや。  
人は龜物。龜に通じて精に泥す。  
故に但だ植の本根精英を有するを見て。  
而して動も亦た本根精英を具するを見ず。  
但だ動植物の本根精英を有するを見て。  
諸を大物に資るを識らず。  
氣物性體を以て成らざる者無ければ。  
則ち往くとして本根精英を具せざる者無し。  
至大は小を遺さず。  
至精は龜を外にせず。の徳なり。  
人は渺たる龜小の智を以て。精没する者を探らんと欲するも。難し。  
然りと雖も精龜は混一して。没露は居を同じくす。我何ぞ天地に外れん。  
故に合して一を成す。男女感じて而して子其の中に成る所以なり。  
條理は男女に於て立す。  
罅縫は所生に於て没す。  
分れて各おの立す。衆くの兄弟の體を一父母に分つ所以なり。  
衆くの兄弟にして散ず、  
父母にして統ぶ。是の故に

二五七  
二五八  
二五九  
二六〇  
二六一  
二六二  
二六三—六四

物立し神活する者は、此の天地を成す所なり。  
 性體合し氣物分るる者は、此の天地を爲す者なり。  
 成は則ち爲に於て成し、而も爲成は自から別なり。而して  
 爲は成に先だち。成は爲に後れるに非ず。  
 故に大地に觀ること有らんと欲する者は須らく條理に繹ねて。以て混成に居るべきなり。

(I 391a)